

植物ゲノム・遺伝子源解析センター 月例セミナー

とき	令和元年5月31日（金）16時～17時
ところ	農学部 A302 演習室
題目	「続々・エピジェネティクス事始」
講師	総合生命科学研究センター助教 池田 滋 博士

概略

環境生物はさまざまな環境ストレスに適応して生存している。そのために必要なさまざまな遺伝子発現を可能にする情報がゲノムに存在する。物理的・化学的環境ストレスのほか、人間の高度に進歩した社会では、親によるわが子の虐待やネグレクト、小集団内で横行するイジメ、その他さまざまな社会的ストレスが加わる。諺に親の因果が子や孫の世代にまで報いるとある。旧約聖書には父親が罪を犯せば子や孫が裁かれるとある。因果応報や自業自得など理不尽な現象が生物界で実際に起きていることが明らかになってきた。ジェネティクスだけでは説明できない現象がエピジェネティクスにより説明され、ゲノムとエピゲノムは補完しあう。ウォディントン、ガードン、スラーニ、山中らの研究の流れを俯瞰した前回までに続き、その後のエピジェネティクスの発展の一部を紹介する。

主催：香川大学農学部 植物ゲノム・遺伝子源解析センター

(<http://www.ag.kagawa-u.ac.jp/phytogene/index.html>)